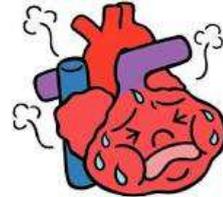




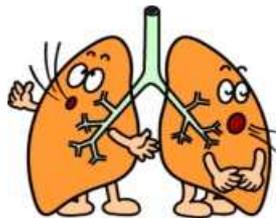
安全に手術を受けるために 禁煙のお願い

タバコが健康に悪影響を及ぼすことはよく知られています。さらにタバコと術後合併症の発生は密接に関わっており、①心臓や血管系、②呼吸器系、③創傷治癒に悪影響を及ぼします。つまり、タバコを吸うことにより術後の回復が悪くなりやすいということです。



1. 心臓や血管に対する影響

タバコに含まれるニコチンは交感神経を緊張させるため、血管が収縮します。さらに一酸化炭素は、細胞の酸素不足を引き起こします。心臓の酸素不足により、狭心症の発作や不整脈が起きやすくなります。また、ニコチンや一酸化炭素によって血管内皮細胞がダメージを受け、血栓（血のかたまり）ができやすくなり、狭心症・脳梗塞・心筋梗塞・肺梗塞などの危険が増加します。



2. 呼吸器に対する影響

術後の最も多い合併症は呼吸器合併症です。喫煙者の手術において、術後に呼吸器合併症を起こす確率は、非喫煙者の**約3倍**です。

タバコを吸っている人の肺には慢性的な炎症が起きています。このため気管支が過敏になって咳や痰が増え、痰を運び出す働きも弱くなり肺炎を起こしやすくなります。また、全身麻酔では気管に呼吸を助けるための管を入れますが、タバコを吸う人ではこの管の刺激で咳や痰がどっと出たり、喘息のように気管支がけいれんして細くなることがあります。咳をすると傷に響いて、とても痛い思いをします。

3. 創傷治癒への影響

傷の治りやすさは、組織のコラーゲン量で決まるといわれています。ニコチンによる血管収縮や細胞の酸素不足の影響でコラーゲン産生が不足します。この結果手術の傷の治りが悪くなり、傷が開きやすくなったり、化膿しやすくなるため、再手術の可能性が高くなります。また、傷跡も残りやすくなります。

手術前に1日でも早く禁煙していただくと、多くの望ましい効果が得られます。タバコを吸うと痛みにも敏感になることがわかっています。そのため、禁煙すると痛みの訴えが少なくなり、術後の鎮痛剤の投与も減らすことができます。たとえ手術前の禁煙期間が短くとも、喫煙によって損なわれていた心臓や肺の働きは大きく回復します。

ニコチンの影響が消えるまでには約12時間、また慢性炎症が治癒するまで約1ヶ月かかります。

手術が決まりましたらすぐに禁煙を実践し、手術に臨んで下さい。